

2025年6月

CHILDREN'S VOICES

アイキャン会報「こどものこえ」VOL.81

2024年11月～2025年4月の活動報告



写真:自由に絵を描く児童養護施設「子どもの家」の子どもたち
言葉で表せない気持ちを表現したり、自分の想いを認識でき
たりするアート活動は、子どもたちにとって大切な時間です

2024年度下期を振り返って



アイキャン代表理事
鈴木真帆

いつも温かい応援をありがとうございます。私たちは昨年設立から30周年を迎えました。記念行事で日本各地を回中で、多くのパートナーの皆さまに直接お会いしました。その中で数々の力強いお言葉を頂き、皆さまがどれほどアイキャンを信じ、期待してくださっているかを改めて実感しました。今のアイキャンがあるのは、皆さまの変わらぬご協力のおかげです。

この30年間では、災害やコロナ、急激な円安などにより、団体の存続危機や存在価値を問い直す機会が多々ありました。今もその渦中ではありますが、この下半期、立て続けに表彰を頂く機会に恵まれ、私たちの取り組みが社会に認められたことが自信につながりました。

その自信を胸に今、新たな歩みを始めています。これからも応援していただける団体であるよう挑戦し続けていきたいと思っておりますので、どうぞ見守っててください。

—誰もが力を発揮できる社会へ—

アイキャンは「誰もがもてる力を発揮し、未来を切り拓くことができる社会」を目指して活動しています。フィリピンの路上で暮らす子どもたち、日本に暮らす外国にルーツを持つ人々をはじめ、社会構造上弱い立場に置かれたり、少数派となり声を上げにくくされた人々。彼ら・彼女らは、社会の制度や仕組みの隙間に落ち、力を発揮するチャンスが限られている現実があります。

一見、遠い世界の話に思えるかもしれませんが、しかし、格差や孤立が進む今の社会で「制度の隙間」に落ちる可能性は、誰にでもある時代です。だからこそ「力を発揮できる社会」を私たち一人ひとりの手でつくっていくことは、弱い立場や少数派に置かれた人々のためだけではなく、全ての人にとって非常に重要だと考えています。

アイキャンという団体名には「I can＝一人ひとりのできること」という想いが込められています。アイキャンは次の3つのステップで「一人ひとりのできること」をつなぎ、目指す社会を実現しようとしています。

- ・ できることに気づく
- ・ できることを増やす
- ・ できることを持ち寄る

一人ひとりが「自分にもできることがある」と気づき、学びながら、他者とつながっていく中で「自分の未来を切り拓く力」を取り戻していきます。アイキャンは、そんな一人ひとりの歩みに寄り添いながら、自らもまた「社会の一員」としてどう生きるかを考え、行動しています。アイキャンの活動は、私の「できること」と、あなたの「できること」、そして誰かの「できること」が出会うことで広がっていきます。

未来は、誰かに与えられるものではなく、私たち自身の手で「ともに」つくるもの。ぜひあなたの「I can」をこの社会で形にしてみませんか？



ビジョン実現のための 3つのステップ

できることに「気づく」

多様な背景を持つ人々の声に耳を傾け、誰もが自らの可能性と社会が抱える課題に気づく機会をつくります



できることを「増やす」

その気づきを育て共有することで、課題解決に取り組む力を伸ばします



できることを「持ち寄る」

その力を持ち寄りつなぐことで、望む未来をともに目指します

～長年の活動が認められました～

◆プラチナ・ギルド・アワード特別賞

認定NPO法人プラチナ・ギルドの会より「第11回プラチナ・ギルド・アワード特別賞」を受賞しました。社会が抱える様々な課題の解決に向けて活動している団体として認めていただいたことは大きな喜びです。これを励みに、目指す社会の実現に向け、引き続き邁進していきます。



表彰式に出席した、アイキャン事務局長の福田（後列一番左）

◆第63回社会貢献者表彰に選出

公益財団法人社会貢献支援財団より、第63回社会貢献者表彰の対象者として選出されました。人々や社会のために尽くした個人・団体を表彰するもので、7月に表彰式が予定されています。本受賞を機にアイキャンの活動をさらに多くの方に知っていただけることを願っています。

アイキャンが向き合う課題

「私にできることは何もない。」一ある高校生の言葉です。「強いて言えば、SNSへの投稿くらいかな。」自分が知った「貧困」という課題を世の中へ発信する、それも「できること」の一つですが、本当にそれだけでしょうか。

このように話す若者の姿は、「どうせずっと路上生活だから」と冷めたように話すフィリピンの路上の子どもや、「どうせ派遣しか仕事はないから」と諦めている外国にルーツをもつ若者の姿と重なります。個人を取り巻く環境は異なっても「自分には力がない」「今の状況を変えられない」と思い込んでしまっている点は共通しているといえます。

アイキャンは、そのような子ども・若者たちに必要なのは「本来の力を取り戻してもらう過程（エンパワメント）」であると考えています。「自分には力がある」と信じ、「やってみよう」と思って一歩を踏み出す。そのような人が増えることで、社会にある構造的な問題にも取り組むことができ、望む未来を自分たちの手でつかむことに繋がるはずです。

アイキャンの取り組み

アイキャンは、過去30年間フィリピンに根を張り、教育や保健、技術訓練等を通して貧困や差別の中にいる人々・子どもたちのエンパワメントを行なってきました。そして彼らが「社会は自分の手で変えられる」と信じて行動する中で、社会が少しずつ変わる姿も見てきました。その学びと経験は、現在の日本においても求められることが増え、近年は日本に暮らす様々な背景をもつ人々のエンパワメントと課題解決にも取り組んでいます。

アイキャンの主な活動

1. フィリピンの路上の子どもたちとともに

フィリピンの路上で生活する子どもたちは、物乞いや物売りによって得たわずかな稼ぎで暮らしています。周囲からの差別や偏見により自己肯定感が低く、辛さや空腹を忘れるために薬物に手を出してしまう子もいます。

そのような子どもたちの命を守り、安心して過ごせる環境を整えるために、児童養護施設「子どもの家」の運営や、低身長・低体重の子どもに対する栄養改善活動、路上生活から抜け出すための「路上教育*」等を実施しています。

* 路上の子どもたちが自らの可能性に気づき、将来を建設的に考えることができるよう促していく活動

2. 外国にルーツをもつ人々・子どもたちとともに

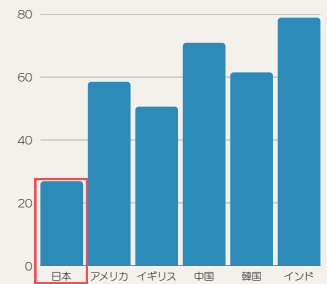
技能実習生を含め、日本に暮らす外国にルーツを持つ人々が増え、地域社会での役割が重要視されています。しかし、適切な日本語・母語支援が不十分で学校に適應できない子どもや、限定的な進路選択しかない若者等、多様かつ深刻な課題も顕在化しています。

これらに対し、外国にルーツをもつ人々が地域で主体的に活動できる環境の整備や、多言語での生活相談、世代や属性を超えて人材をつなぐ活動を行なっています。

3. 社会を育む人々とともに

「自分には何もできない」「社会は変えられない」と感じる若者や子どもは少なくありません。しかし、出会いや学びを通じて多様な価値観に触れることで、「自分にもできることがある」「行動してみよう」と思えるようになる——アイキャンは、そのような一人ひとりの気づきと変化こそが、社会を育て、変えていく原動力になると信じています。

そのため、学校・企業・自治体などと連携し、現状を知り、自らにできることを考え、行動へとつなげていく研修や講演を全国で行なっています。



「自分の行動で、国や社会を変えられると思う」と答える日本の若者は26.9%で調査対象6カ国中最下位。

日本財団「18歳意識調査」調べ（2022年）

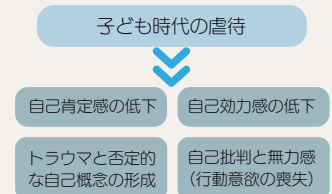


子ども時代の虐待とその影響

虐待経験のあるフィリピンの子ども・若者（13～24歳）



【参考】ユニセフ “Situation Analysis of Children in the Philippines”



通学への意欲を促す路上教育



貧困地域での栄養改善活動



研修で話し合う日比の若者たち

数字で見る

2024年度下期
「ともに」活動した人々

- ・安心して過ごせる場を得た人・・・約180人
- ・栄養状態を改善できた人・・・約640人
- ・ともに考え、行動した人・・・約160人 など

社会を動かす出発点に！ 路上の若者たちの声

今年3月、私たちはカリエ*と路上で暮らす若者、村役員、警察官とともに「関係者会議」を開催しました。目的は、若者たちの声を直接届けることと、路上の子どもの課題に社会全体で取り組むための「協働チーム」を作ることです。

参加した若者たちは、性的虐待や家庭内暴力、路上で受けた暴言や暴力の実態、そのような過酷な環境の中でも働き続け、学校に通い続けた経験を自分の言葉で語りました。「僕はシンナーを使ったことがある。それが悪いことは知っている。でも、空腹をしのぐためにそうするしかなかった。そんな現実には僕たちが置かれていることを知ってほしい。」それは誰かを責めるのではなく「なぜ自分たちが路上にいるのか」を真剣に伝え、その痛みと誇りを込めた声でした。そして「**私たちはただ助けられる存在ではない。私たちの現実を知ったうえで、一緒に考えてほしい**」と大人たちに訴えました。

路上の子どもたちの多くは、自分の話を聞いてもらったり理解されたり、自分の言葉に大人から関心を示されたりする経験が圧倒的に少なく、声を上げて意味がないと感じています。特に、村役員や警察のことは、自分たちを取り囲み危害を加える「敵」のような存在だと認識しているので、本音を話すには大きな勇気が必要です。しかし、カリエの存在と信頼関係の構築が、若者たちが自分の思いを素直に伝えることを可能にしました。ある警察官は会議後「警察官として申し訳ない。二度と同じことが起こらないように、自分にできることを考えたい」と語り、この言葉から**警察である彼女自身が変わる決意と、社会を良くしようとする強い意志が伝わってきました。**

今後は、政府機関や教育・福祉関係者、市民団体などさまざまな立場の関係者を招き、継続的に「関係者会議」を開催していきます。若者たちの声を丁寧に受け止め、その声を出発点に支援のあり方や制度の見直しを進め、より具体的な支援策を展開していくことが、路上で暮らす子どもの数を減らすために不可欠です。

たとえ上手に言葉にできなくても、当事者の声には大きな力があります。**これまで見過ごされてきた路上の若者たちの声の一つひとつが社会に届き、重なり合うことで、やがて社会を動かす原動力になると、**私たちは信じています。彼らの声を社会の中で大切に育て、ともに解決策を模索していくことが、未来を切り拓く鍵だと考えています。



*かつて路上生活をしていた若者で構成される組織。

※本事業は公益財団法人風に立つライオン基金の助成により実施しています。



広がる「路上教育」の輪

協同組合カリエによる「路上教育」。路上で暮らす当事者だったカリエが語る言葉や前を向いて生きる姿は、これまで多くの子どもたちに「自分も変わるかもしれない」という気づきを与え、学習意欲や将来の夢をもつことに繋がりました。そして「**自分もカリエのように、路上の子どもたちに希望を与えたい**」と願う若者が少しずつ、でも着実に増えています。その若者たちはカリエによる研修を受け、「路上教育」の新たな担い手となりました。こうした活動は、昨年末に実施した「冬募金」でのご寄付等により成り立っています。一人でも多くの子どもに「路上教育」を届け、路上生活から抜け出すきっかけをつくれるよう、これからも応援してください。

若者の「もやもや」から生まれる一歩

「自分の行動で社会を変えられると思う」—そう答える日本の若者は26.9%で、調査対象の6か国中最も低い割合です（日本財団「18歳意識調査」調べ/2022年）。多くの若者が社会を「自分とは別のもの」と感じ、社会を変えるのは行政や権力者の役割だと思いがちです。その背景には、自分の行動が社会に影響を与えた実感や経験の少なさがあり、**「何かおかしい」と感じてどう動けばいいかわからない**のです。

しかし、「生きづらさ」が広がる今の社会で、若者一人ひとりが抱える「もやもや」を見過ごしてはいけません。**その気持ちに耳を傾け、言葉にし、一緒に動いてくれる仲間とつながること**。その中から、自分たちの力や地域の資源が見えてきます。そして、それが「社会を変える力」になっていくとアイキャンは考えています。

そこで、大学生を対象にした研修を実施し、自分の人生や気になることを振り返りながら、「なぜそれをやりたいのか」をストーリーにして語る方法を学んでもらいました。これにより、参加者は自分の思いを伝え、共感を得て仲間を集めることができ、具体的な行動へとつながっています。例えば、子どもの学習支援や発達障がいのある学生の交流の場を地域に立ち上げた参加者もあり、**「一人で悩んでいたことが言葉になり、仲間と対話することで、自分から始めていいと気づいた」と**語っています。こうした経験は、「自分にもできるかもしれない」という実感を生み出し、次の一歩を踏み出すきっかけとなっています。



※本事業は、公益財団法人電通育英会の助成により実施しました。

「なんとかしたい」——フィリピンでの経験と「今」が交差した瞬間

岐阜出張所（美濃加茂市） 福田浩之

「岐阜県可児市の駅前には、夜になると多くの若者が集まる。」そう聞いた私は、その駅前に行きました。夜回りをしながら若者たちに声をかけると、多くはフィリピンにルーツを持つ若者で「家に帰りたくない」「高校は辞めた」と語りました。ある晩、「夢は特にない。どうせ工場だし」とつぶやいたフィリピンの若者の言葉が、私の胸に深く突き刺さりました。**将来の可能性に満ち溢れた若者が、希望を見い出せず、自分で選択肢を狭めてしまっている**。その姿は、かつて私がフィリピンで関わっていた路上の若者たちと重なりました。「なんとかしたい！」—その一心で「チルカフェ」を始めました。飲み物を手に語り合ったり、カードゲームで笑ったり、ただのんびりできたり、それがチルカフェです。

挑戦してみた「音楽ライブ」

チルカフェでは、**若者が自分らしくいられる空気**を大切にしています。何気ない会話の中から、ふと本音がこぼれることがあります。「自分のことを理解してくれる人がほしい」「音楽を作っている時が一番楽しい」——そんな言葉を、若者たちは語ってくれました。この場所を、若者が「やってみたい」ことに挑戦できる場にしたい。そう思い、音楽を作っているフィリピンルーツの若者に「音楽ライブ、やってみる？」と声をかけると、「やる！」と嬉しそうに即答してくれました。彼の友人が司会を引き受けてくれ、ライブ当日には国籍や世代を超えて約40名が集まりました。彼は日本語・英語・タガログ語の歌を披露し、大きな拍手に包まれました。

終演後、「緊張したけど、拍手をもらったり褒められたりして嬉しかった。もっと練習してまた挑戦したい」と話してくれました。**誰かに認められ、心から応援される経験が、若者の中に自信と意欲を生み出していきます**。私がフィリピンの若者から学んだことを、チルカフェの運営に活かすこと——それが私の「できること」です。



※本事業は、赤い羽根福祉基金の助成により実施しています。

スタディツアー

ツアー参加者からの忘れられないお手紙

岐阜出張所（池田町） 吉田文

Fさん（2011年のスタディツアー参加者）からのお手紙を、ぜひ皆さんと共有させてください。そのお手紙は、フィリピンの魅力がたくさん詰まった旅行雑誌と一緒に届きました。

「ツアーに参加し、自分の無力さを痛感して泣きながら帰国しました。帰国後も自分に何ができるかをずっと考え、旅行雑誌を作ろうと決意しました。フィリピンに関心を持ち、足を運んでくれる方が増え、観光分野における現地での雇用も生まれるはず、それがたくさんの学びをくれたフィリピンや現地で会った子どもたちにできること、と考えたからです。企画を通すのに長い長い時間がかかりましたが、ようやく思いを形にすることができました。」

このお手紙を私が受け取ったのは2019年。ツアーを終えた彼女が目標を見つけ、そして8年もの長い時間をかけて夢を叶えていたことを知ったのは、この手紙を通してでした。5日間という短い時間を共有しただけでしたが、彼女の中でフィリピンや子どもたちが確かに生きていたことが伝わり、自然と涙があふれました。



写真上：お手紙とともに届いた雑誌

写真下：Fさんが参加した当時のツアーの様子



夏のスタディツアー、参加者大募集！

—「社会」と「私」と「未来」を変える5日間—

アイキャンのスタディツアーは、活動地の人びとや子どもたちとの交流が満載です！

経験豊富なスタッフが同行しますので、海外が初めての方も、お一人でのご参加も大丈夫。

この夏の思い出に、ぜひ一緒に行きませんか？

日程 プランA：2025年8月6日(水)～8月10日(日)
プランB：2025年8月27日(水)～8月31日(日)



詳細はこちら↑

どんなことでもお気軽に
お問い合わせください！
メール：info@ican.or.jp
(担当：吉田)



物品収集活動



届いたハガキや切手の仕分け、カウント作業をしてくださるボランティアさん

郵便料金値上げによる影響は…ドキドキのカウント作業

日本事務局 長谷川薫

アイキャンが毎年実施している「未投函ハガキ等収集活動」。2024年度は郵便料金の値上げがあり、年賀ハガキの発行枚数自体が25%削減されるということで、この活動への影響が懸念されました。ところが、ハガキだけでも前年度とほぼ同額のご寄付が集まり、こちらの心配を跳ね除けるかのように寄せられた沢山の温かいお気持ちに感激しました。毎年送ってくださる方、新聞の告知をご覧になって初めて送ってくださった方、「少しですがお役立てください」と言葉を添えてくださった方もいました。「自分にもできることを」と行動に移してくださった全ての方に、深く感謝申し上げます。皆さまが持ち寄ってくださった沢山の「できること」が、子どもたちの笑顔を生み出す力となっていきます。

◆ 学校に通えていなかった時期を挽回したい！

パトリック君（仮名／児童養護施設「子どもの家」・13歳）



僕は今、飛び級テスト*に向けて勉強を頑張っています。これまで何度か合格して、「子どもの家」で暮らし始めた2年前は小学2年生だったけど、今は6年生。**路上生活で学校に通えていなかった時期を挽回して同じ年の子たちに追いつけるよう**、テストに合格して早く7年生（中学1年生）になりたいです。前は英語が苦手だったけど、補習を受けたり、日本人のインターン生と英語で話すようにしていたら、だいた分かるようになってきました。寮母さんからも「高校や大学の授業ではタガログ語ではなく英語が使われるし、色々な仕事に役立つ」と聞いたので、もっと力をつけたいです。

*合格すれば学年を飛び越えて進級できるテスト。詳しくは下の「フィリピンの教育事情」をご参照ください。

◆ 自分の可能性を信じて—自主プロジェクトへの想い

メリアンさん（マニラ・17歳）



私は学校に行かずに路上で働き、家族を支えてきました。でもカリエの研修*に参加して自分の過去を振り返る中で「本当は学びたかった」という気持ちが自分の中にあったことに気づきました。そして仲間と語り合い、リーダーとしての力を育む中で「**自分も変わるかもしれない**」と思えるようになりました。だからこそ、今路上で生きる子どもたちにも学ぶ楽しさや自分を信じるきっかけを届けたいと思い「学び応援プロジェクト」を始めました。文字や数字に関心を持てるような絵を用いて「学びの一步」を提供し、子どもたちに「自分の可能性」に気づいてもらいたいと願って活動しています。

*元路上の若者による協同組合カリエが、「路上教育」の担い手を育成するために行う研修。

◆ 私にできることを少しずつ。

阿部真奈さん（株式会社YNS・元アイキャン職員）



私の行動の原点は、フィリピンで出会った子どもたちです。汚れた道端で傘を家代わりにしながらも、飴を分けてくれようとした無垢な優しさに心を打たれました。

現在勤める会社はCSR活動に積極的で、私は「少しでもフィリピンの子どもたちにつながるように」との想いで、アイキャンへの寄付の提案などをしてきました。二児の母としても多忙な日々ですが、イベント出展や講演の機会があれば参加し、アイキャンの活動を紹介しています。**一つひとつの行動は小さくても、それを重ねればきっと未来は変えられる。**子どもたちが夢を語れる世界を、皆でつくっていきたいです。

ご存知ですか？

フィリピンの教育事情

フィリピンの義務教育は、幼稚園1年、小学校6年、中学4年、高校2年の計13年間です。成績が基準に達しないと留年することがありますが、逆に優秀な生徒は飛び級も可能で、児童養護施設「子どもの家」の子どもたちも飛び級テストを受けるために頑張っています。

フィリピンの小学校就学率は約90%ですが、制服や文房具、昼食代等を負担できず、学校に通えない子どももいます。一度入学しても、家計を支えるために休学・退学する子どもも少なくなく、10歳までに簡単な文章を読んで理解できない「学習の貧困」の状態にある子どもの割合が90.9%に上ります。（参考：The State of Global Learning Poverty: 2022 Update）

子どもたちの学ぶ権利を守ることは、未来を守ることに繋がります。私たちアイキャンが教育活動に力を入れている理由は、そこにあります。



夏募金のお知らせ

路上から教室へ！子どもたちが学校に通えるよう応援してください！

2025年6月1日から7月31日まで、クラウドファンディングを実施します。
詳細は同封のチラシまたは右記二次元コードよりWEBページをご覧ください。



月々1,000円からのご寄付で、アイキャンとともに活動しませんか？

～マンスリーパートナー募集中～

マンスリーパートナーは、月々1,000円からの一定額をご寄付いただき、アイキャンの活動および運営を応援していただく制度です。継続的なご寄付は、活動の持続・発展において大きな力となります。

ぜひマンスリーパートナーになって、私たちと「ともに」活動してください！

詳しくはこちら⇒



1,000円のご寄付で

例えば、6人の子どもの文房具一式を提供できます。



3,000円のご寄付で

例えば、約60名の子どもに「路上教育」をする材料費になります。



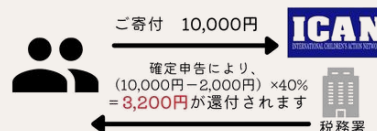
5,000円のご寄付で

例えば、貧困地域の子ども85人に栄養価の高い給食を1回提供できます。

税制優遇が受けられます！

アイキャンは、名古屋市の認定を受けた「認定NPO法人」です。アイキャン発行の寄付金領収書を用いて確定申告を行うと、税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

例）10,000円のご寄付の場合



～企業・団体の皆さまへ～

アイキャンでは、国内外の活動を通じてSDGs達成に向けて取り組む中で、様々な企業・団体との連携を進めています。各社の強みや特性を活かした社会貢献の形をともに考えていきますので、ぜひご相談ください。（メール：info@ican.or.jp）

当団体と企業・団体との連携についてはこちら⇒



2024年度にご協力くださった企業・団体の皆さま



アース製薬

Snowcane



SUNSHINE 夢ハウス

YADA



ORANGE Rainbow
Nurse's Beauty Salon



キETCHI。
powered by BOOK-OFF



採用商店
株式会社



Total Life Support
& Consulting



Travelish



マックスバリュ東海株式会社

名古屋みらい
ロータリークラブ

※一部のみ掲載。

認定NPO法人アイキャン (ICAN)

◆名古屋事務局

〒461-0002 愛知県名古屋市東区代官町39-18
日本陶磁器センタービル5F 中部リサイクル運動市民の会内

【TEL&FAX】052-253-7299

(休業日：日・月・祝)

【E-mail】info@ican.or.jp

◆岐阜出張所（池田町）

〒503-2406 岐阜県揖斐郡池田町宮地930 土川商店内

◆岐阜出張所（美濃加茂市）

〒505-0041 岐阜県美濃加茂市太田町2542-10 太田パークビル3階



ホームページ



Instagram



Facebook